性だけの報告がないので、直接報告できる機会ということで設定しています。先ほどのご意見を踏まえて報告としての位置づけもあるので、進行管理に入ってもよい気がしました。

【長谷川委員】

6章2節の「結果や報告については」という記載で、「公表します」とあるが、単に環境白書が毎年発行されているだけで、結果を毎年報告するとは明確に書かれていない。もちろん毎年報告する必要があるし、フォーラムのような形で毎年市民に情報還元しますとか、あるいは検討会や有識者会議を年に一度開催して進捗管理をするなど書いた方がよいと思います。環境白書にも、地域戦略に沿った事業の報告をすることになりますよね。それはよいと思います。

【立木委員】

この進行管理のチェックについては、環境審議会ですということなのではないでしょうか。環境審議会は幅広い分野の話をすると思います。この戦略はかなり特化しているので、釧路で自然再生協議のような個別で注視するようなモニタリングする会があるわけではないということでしょうか。もう少し前に言うべきことだったと思いますが。

【事務局】

環境審議会については、生物分野ということで松島会長と鳥の関係の方で2名入っております。ただ、地域戦略が多岐にわたるので網羅できていない部分は多くあります。今後の自然保護課としての考えですが、石狩海浜植物保護センターの方向転換を考えています。現在では石狩浜に生育する海浜植物を中心とした普及啓発ですが、それが生物多様性の普及啓発に舵を切る考えで動いています。そこでの事業がこの地域戦略を担っていく方向になればよいかと思っています。現在では保護センターと地域戦略など各所にある審議会や事業がバラバラと動いている状態なので、一本化したい方向でいます。

【立木委員】

であれば、この進行管理もその新規に考えられている担当がするという意味でしょうか。私のイメージとしては、何人かの人が集まって、石狩市の地図を広げてこれを地域戦略の実施している、できていないというチェックする組織がないので、そういった会議があるとよいと思います。

【長谷川委員】

立木委員がおっしゃるような検討会議のような場はあったほうが良いと思います。環境審議会よりも、もっと具体的に生物多様性保全に対する委員会組織があるとよいと思います。ただ現状は、石狩浜のアクションプランについても検討会があって、石狩海浜植物保護センターの運営委員会もある。そうした既存の検討会での、議論対象を広げて、厚田・浜益区も含めた議論を出来る場、生物多様性保全の関係者が集まって意見を交わす場を継続的に設置できればよいと思います。

【松島会長】

ただ今の論点としては、環境審議会等としている等の部分が大事ですよね。今はないけれどこれから設置する意思はあるというか、そこに期待したいと思っています。

【立木委員】

この等が大きいですね。

【松島会長】

この部分は大きいと思いますので、頑張ってくださいと思います。

【徳田委員】

外来種対策の 29 ページのアクションプランの内容についてですが、防除を進めていきますとありますが、外来種の対策として大切なのが調査と啓発なのでそこも記載いただけたらと思います。

【長谷川委員】

そうですね。全てにおいて「調査」あるいは「情報の収集や現状把握」、そして「普及啓発」は必要ですね。おっしゃる通りだと思います。

【徳田委員】

その次に情報共有の構築とか、普及啓発の促進がありますが、アクションプランの策定の中に入っているのもよいと思います。

【事務局】

徳田委員のご意見のとおり、情報の把握ができて、防除対策の実施から情報共有体制の構築、普及啓発の促進もアクションプランで必要なもので追記したいと思います。

【長谷川委員】

順番を入れ替えてもよいのかもしれませんがね。まず情報収集や情報体制の構築、次に対策、そして普及啓発が来て、最後に、それらをより具体的に計画するために、必要に応じてアクションプランを策定する。この記載は後ろに来てよいのかもしれませんが。

【松島会長】

大きな改定ではないので、修正いただけるといいですね。別ですが、函館のアズマヒキガエルの保全のような要望もありますね。

【徳田委員】

経緯を踏まえると、かなり昔から函館にはアズマヒキガエルが入っており、昔から保全活動をしている人もいます。遺伝子検査の結果、外来種であることは分かったが、舵が切れない状態にある方もいると思います。保護してきた経緯があるとはいえ、外来種を保全するという話にはならないです。やるとしても、域外で野外に出ないようにして飼育してもらえないと思う。トノサマガエルなども分布が飛び地でできたりしているのを見ると、人の手によって分散されているのでそもそもこの種は外来種であるという普及啓発は必要だと思っています。

【長谷川委員】

やはり 5-3 の軋轢のパートにもアクションプランの策定が必要そうですね。情報把握と、防除対策、普及啓発、そしてアクションプランの策定とある方がよいと思います。